

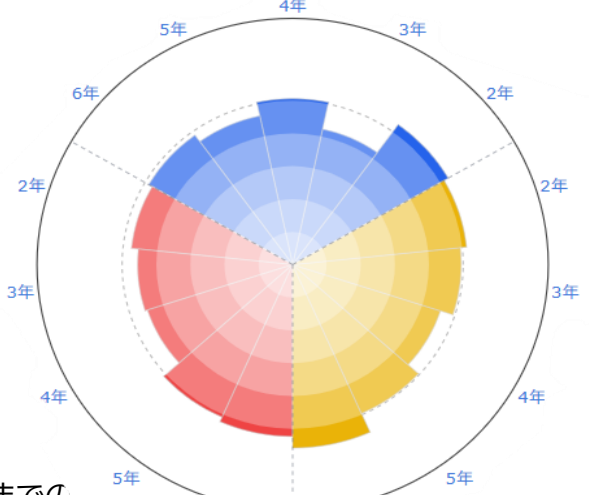
学力向上アクションプラン

重点取組分野		具体的取組
確かな学力		①児童が自分の理解度に応じて学習活動を自己決定できる場面を設定し、授業の中で「学び方を学べる」よう努めます。また、重点研究会や学年研究会等の研修を通じて「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善に取り組み、粘り強く学ぶ意欲をもつ子どもを育成します。 ②少人数制や教科担任制、学年での連携を生かし、複数の目で見とることで、児童が自身の理解度を的確に把握し、自信をもって学習を進められるように組織的に支援します。 ③家庭と学校が連携し、児童が自ら学びを深められるよう、学校で実施している学び方やICTを活用した学習について家庭に積極的に情報を発信していきます。
担当	確かな学力部	

学力向上に関わる本校の状況

(1)確かな学力に関わる児童の実態

横浜市学力・学習状況調査から見える実態としては、学力面は、学校全体を通して市の平均と比べると、やや下回っている傾向にある。また、学習意識についても、平均程度であることが分かった。一方令和5年度から令和6年度にかけてより、どの学年においても、学力を伸ばした児童の割合が7割～8割いることが分かった。この結果では、多くの学年・教科で横浜市の平均の伸びを上回っていた。



(2)これまでの取り組み

学習意欲が学力向上につながる。横浜研究で国語科授業の研究を行い、主体的・対話的な授業展開を行い、他教科でも同様な展開を意識して取り組んだ。対話の中で語彙を増やせるように「ことばのたからばこ」を活用した。朝の読書タイムには、全校で読書活動を行った。学習内容に合わせたスキルその他、ICTを積極的に活用し、個に応じた復習や反復練習を行った。また、特別支援教室・国際教室で少人数指導を行い、個に応じた指導を行った。また、発達段階に合わせて、教科担任制を導入し、授業の質の向上を目指してきた。

今年度の目標

「主体的・対話的な学び」の基盤を継承しつつ、算数科を重点とした「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、粘り強く課題解決に向かう態度を育てます。また児童が自ら、「学びの選択」ができるようにし、相互評価を他教科へ広げて、自立的な学習態度を養っていきます。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- ・児童自らの「問い」から学習課題を設定し、見通しを持って粘り強く解決したくなる授業をしています。
- ・算数科で重視する「試行錯誤」を他教科へ広げ、学ぶ楽しさを実感できるようにしていきます。
- ・児童が「一人で深める(個別)」か「友達と合わせる(協働)」かを判断し、選択できる場面を意図的に設定し、自立的な学習態度に繋がります。
- ・ICTを活用して自分の考えを表現し、友達と伝え合えるようにします。互いの表現のよさを認め、自分の考えを広げたり深めたりする活動を行います。
- ・教科担任制を活かし、結果だけでなく「数学的な見方・考え方」を働かせて取り組む過程を、複数の教員で肯定的に評価できるようにしていきます。個々の伸びを価値づけることで、学習意欲の向上を図ります。

下半期